

言葉による指導の受容に課題がある生徒への ICT 活用 「タブレット端末を用いた大型モニタの電子黒板化」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部 1～3 年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動や生活上のきまりやルールを守れていない場面において、状況や内容によっては教師の言葉による指摘・指導を素直に受け入れることができず、拒否を示すことがある。(「なぜ正しい自分が指摘されなければならないのか」と強い反発を生むことがある。) ・自分こそが正しいという気持ちがあり、自分に厳しいだけでなく、相手に対しても同じレベルを求めてしまい、柔軟に対応できないことがある。(自閉スペクトラム症 (ASD) 児の特性)
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	作業学習 (校内実習：箸入れ班)
	単元(題材)名	「朝礼・終礼の場面」
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校内実習の学習活動において、守るべきマナーやルール、今取り組むこと等について、大型テレビにリアルタイムで表示し、全体の共通ルールの確認や意識化を図る。 ・班長は司会の進行とともに、表示画面を指さしながらみんなの共通ルールとして示し、正すように促す。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	<p>○大型モニタ ○タブレット端末 ○アプリ「whiteboard」</p> 
	ねらい・工夫点	<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内実習の学習活動過程において、守るべきマナーやルール、今取り組むこと等について、大型テレビにリアルタイムで表示し、全体の共通ルールの確認や意識化を図る。 ○教師の指導を安定した気持ちで受け入れ、前向きに活動に取り組むことができるようにする。 <p><工夫点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容やルール等をタブレット端末のアプリを活用し、リアルタイムで大型モニタに手書き表示することで、自分が何をすればよいのか、何を意識して取り組めば良いのかを明確に示す。(※無線接続) ・教師の言葉による直接的な指導ではなく、文字による提示・周知を図ることで、生徒が全体の共通確認事項として捉えたり、自分の行動を振り返り自ら気付いて正したりすることができるようにする。 ・気持ちが不安定にならずに受け入れることができるようにする。(※一方的な行動の修正やルールの提示ではなく、みんなにとってより良い生活に繋がるための必要な情報として伝え、自分で気付き・判断できるように導いていく。)
	材料・作成方法等	アプリ「whiteboard」
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・文字による提示により、自分の行動や態度を振り返り、素直に受け入れ、修正することができた。(可視化・共有化) ・集団の共通のルール、マナーとして肯定的に捉えることができたことにより、生徒同士で意識し、注意し合う場面も見られるようになった。(合理的配慮の視点)